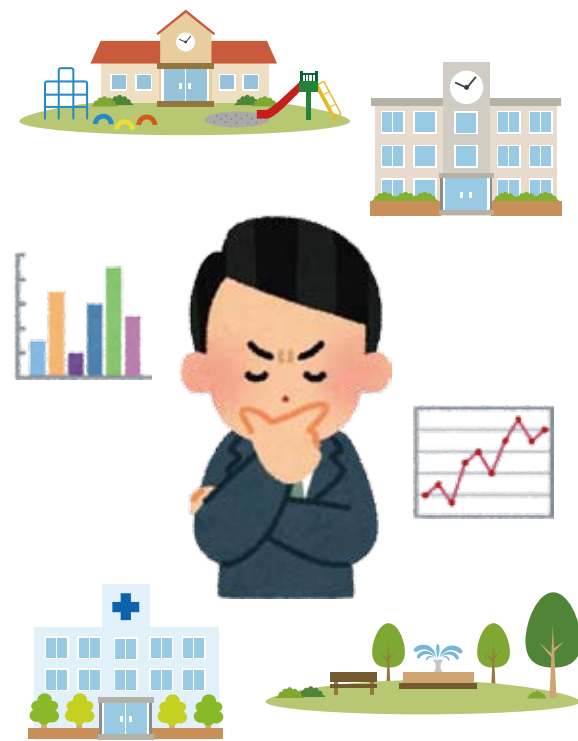


20億円以上の巨費を投じ成功するのか？

道の駅建設は凍結、再検討

- 教育の充実、福祉の充実など予算を必要としているものはたくさんあります。
- 道の駅は「公の施設」ではありません。公共の役割は何でしょうか？
- 投資した税金は回収しなくても良いのでしょうか？
- この場所で21億円を投資して商売する民間業者はいますか？
- 一度立ち止まって再検討が必要です。



開業予定時期

阿見町「道の駅」は、当初、平成31年9月に行われる国民体育大会茨城県大会に合わせて、平成31年7月に開業予定でしたが、建設予定地地盤に建設工事に大きく影響する「湧水」があり、その対策や湧水量を調査検討するために、1年間、整備が遅れることになりました。国体という絶好のタイミングを逸することになりました。

現在の進捗状況

阿見町「道の駅」は、平成22年度から役場内で検討を開始し計画が具体化しました。翌、平成23年度に交通量調査が行われ、平成27年度に基本計画、民間活力導入調査、基本設計が行われ、昨年(平成28年度)には、不動産鑑定が行われました。今年度に用地買収、実施設計、埋蔵文化財調査、用地内の伐採工事が予定され、平成30年度から造成工事に入り、平成32年度のオープンを予定しています。

近隣の「道の駅」の状況

龍ヶ崎市は、阿見町と同じ時期に国道6号線沿い牛久湖畔3.6ヘクタールに「道の駅」を17億円でオープンさせようと計画しています。

一方、今年5月、坂東市議会は計画中だった道の駅整備中止を求める議案を全会一致で可決し、計画をストップさせました。市議会では「数十億円もの投資に見合う事業か疑問があった。国も県も無責任だから、しばらく様子を見て検討しても遅くない」としています。

道の駅を研究する尾道市立大学の小川長教授は、「財政が悪化する中でやみくもに建てるのは危険だ。地域にとって本当に必要なものが何かを考え抜かなければ、いずれは整理される」と警鐘を鳴らしています。(毎日新聞より)

道の駅予定地

阿見町道の駅実施設計方針(案)より



これまでの議論

道の駅計画は、「道の駅準備検討委員会」「道の駅整備推進会議」などでさまざまな議論がなされました。議会からも、一般質問、全員協議会での議論、該当常任委員会の先進地視察を踏まえた提言などが行われています。

本当にこの場所で良いのか

現計画では、国道125号線バイパスと県道竜ヶ崎阿見線バイパスが交差する追原交差点に接する南東側に整備される予定です。

委員会及び議会で提言された中には、圏央道に隣接した吉原地区に道の駅を計画すべきではないかという有力な意見がありました。年間300万人以上の来場者があるアウトレットや牛久大仏に近接し、高速道路(圏央道)からも利用できる場所こそが良いのではないかとこの意見です。

圏央道は全線でSAがない高速道路です。したがって、圏央道の人の流れを受け止めるためには、インターに直結した、あるいはインターに寄り添う「道の駅」の整備が有効だということです。



町外の業者だけが儲かる仕組み!

阿見町の道の駅は、民間事業者の指定管理者が運営主体となることが決まっています。



常陸大宮市及び常陸太田市では、行政やJA、金融機関、その他市内の業者などが運営会社をつくって管理運営に当たっています。最近では、指定管理者方式を採用するところも多いようですが、地域資源を活用し地元の意向を丁寧にすくい上げて、オール阿見で運営に当たるといったのが望ましい姿ではないでしょうか。利益が上がっても、町には還元されないということでは、いったい何のために道の駅を整備するのでしょうか。

異常に高い造成費用、建築費用

阿見町と両市を比較すると、敷地面積、建物総面積の大きさに比較して造成費用、建築費が異常に高いことが分かります。すでに20億円を上回る事業費にふくらんでいます。

立地場所が適切だったのか、過大な設計で事業がふくらんでいないのか、このまま計画を進めるのではなく、一度立ち止まっての慎重な再検討が必要です。(右表参照)



阿見町と常陸太田及び常陸大宮・道の駅計画比較

	阿見町 道の駅「名称未定」	常陸太田市 道の駅「黄門の郷」	常陸大宮 道の駅「かわプラザ」
敷地面積	2.58ha	2.2ha	5.6ha
建物総面積	1,781㎡	1,822㎡	2,759㎡
建築費	9億6,000万円	6億7,642万円	12億6,954万円
用地購入費	2億1,500万円 (家屋移転含む)	1億2,000万円	9,269万円
造成費	7億2,000万円 (県負担金含む)	3億5,443万円 (外構工事含む)	5億92万円 (県負担金含まず)
総事業費	20億円以内	13億5,200万円	19億9,770万円
経営主体	指定管理者 (町外民間事業者)	第三セクター (市・他)	第三セクター (市・JA)
利用者数見込	約60万人	約36万人	約50万人
売上高見込み	4億5,000万円	5億6,700万円	4億5,035万円
前面道路交通量 (12時間)	国道10,170台 県道 1,606台	国道17,861台 奥久慈観光	国道17,205台 里美・竜神峡

道の駅建設は凍結、再検討

阿見町が計画する「道の駅」は、国道125号に面するとはいえ道路交通量が少なく、特に観光バス等の、道の駅に立ち寄って買い物をする想定される観光客が少ないという欠点があります。

成田山新勝寺や鹿島神宮、コンビニ、成田空港、銚子など主要な観光施設のアクセスは、国道125号線ではなく圏央道の全面開通で、圏央道を利用することになっています。

阿見町の財政状況

1 増え続ける借金(起債残高)

計画的な施設整備や財政運営ではなく、思い付きの事業・無計画でムダな支出が多く、若い世代に付け回しをする借金(町債)に頼っています。

2 減り続ける預金(財政調整基金)

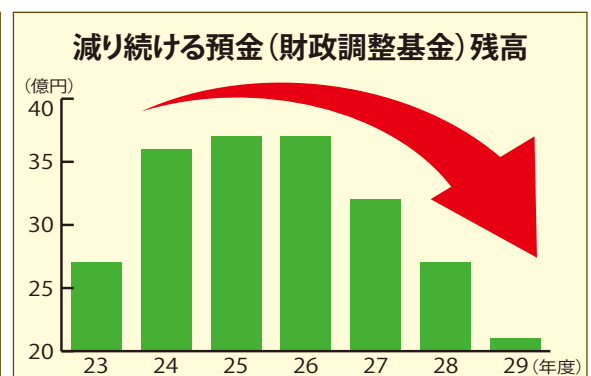
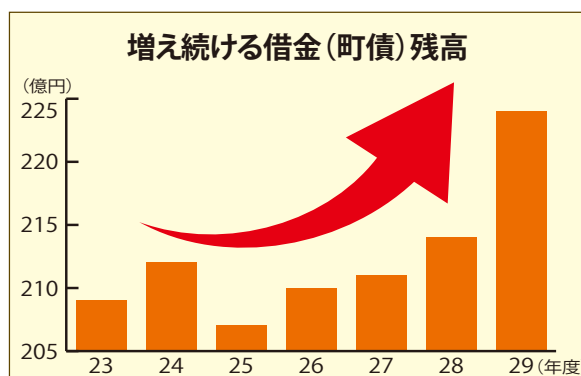
清掃センター談合賠償金5億円などを積み立て、一時期37億円まで増やした財政調整基金は平成29年度末では20億円にまで減少する見込みです。

3 財源不足(今後の見通し)

平成30年度から32年度までにおける実施計画に対して財源が4億9800万円不足する見込みです。そのため、基金(預金)の切り崩しか借金(町債)でまかなう計画となっています。(3か年実施計画)

4 最大の問題は過大でムダな事業

議会にも相談せず2千数百万円をかけながら一度もまともに動かず損壊した水道事務所における追尾型太陽光発電、まともに点灯せず照度不足の一基150万円の給食センター外灯など、思い付きでムダな事業が目立ちます。



※数値は四捨五入、平成28年度決算、平成29年度予算書をもとに作成